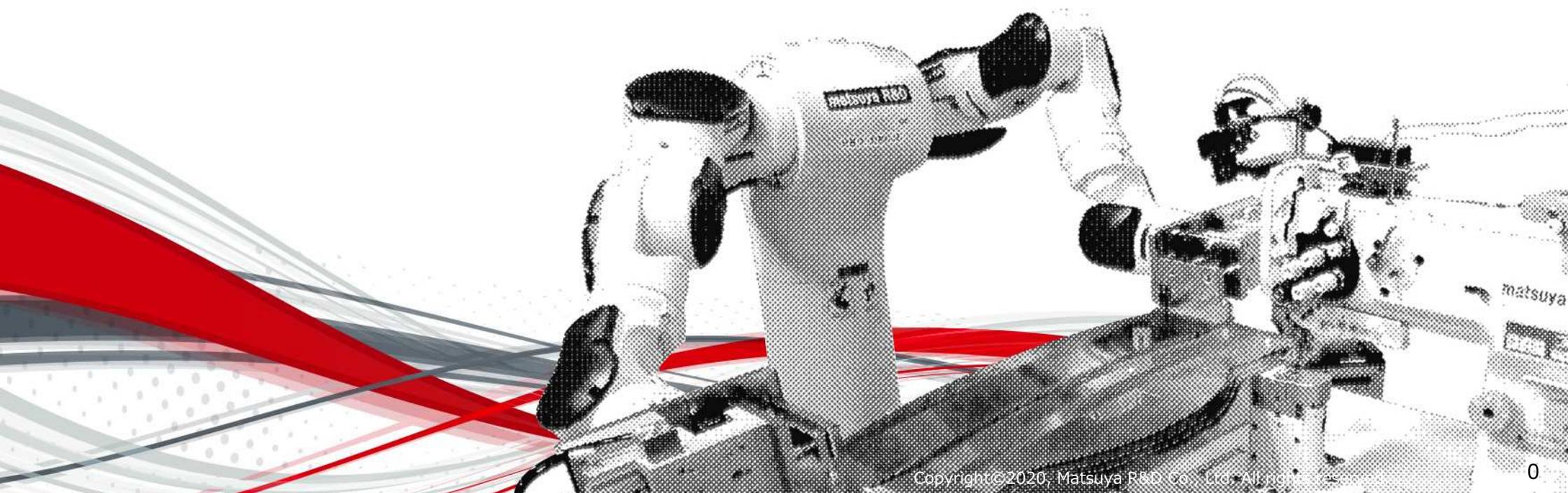




株式会社松屋アールアンドディ

# 成長可能性に関する説明資料



# 会社概要

---

# 会社概要

会社名	株式会社 松屋アールアンドディ
設立	1982年8月7日
上場市場	東証マザーズ 証券コード 7317
本社	福井県大野市鋤掛20-1-2
資本金	242百万円
代表者	代表取締役社長 後藤 秀隆
事業内容	自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売、 レーザー裁断機の開発・製造・販売、 血圧計腕帯の製造、カーシートカバーの生産 等
従業員数	1,373名（2020年1月末）
拠点	海外拠点：3 拠点（中国：上海市・ベトナム：ドンナイ省・ミャンマー：ヤンゴン州） 国内子会社：1 拠点（宮城県：栗原市）



縫製自動機の開発とAIラインの構築によって、  
**縫製業界の無人化**を推進する**オンリーワン企業**

## 経営理念

**Safety & Medical Healthcare**を通して  
科学技術の向上を図り人類に貢献する

## 事業目標

AI Sewing Robotの開発を通して、  
日本版Industry4.0を行うリーディングカンパニーとして  
縫製業界の日本回帰を促し、  
日本の製造業の活性化に貢献する。

# 事業内容

弊社はミシンメーカーではなく、  
縫製の自動化を行う「縫製自動機事業」と  
新しいビジネスモデルによる「縫製品事業」が主力事業から成る。

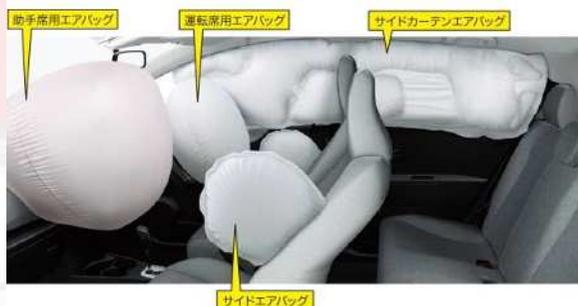
## 縫製品事業

- 各種縫製品の製造

▼ 血圧計腕帯 ▼ カーシート



▼ エアバッグ



## 縫製自動機事業

- 自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売
- レーザー裁断機の開発・製造・販売



# 沿革

長年にわたって培った縫製業界のロボット化のノウハウを活かして事業領域を拡大しながら成長



Safety分野に注力し自動化ノウハウを蓄積

Healthcare分野に進出し  
事業領域拡大

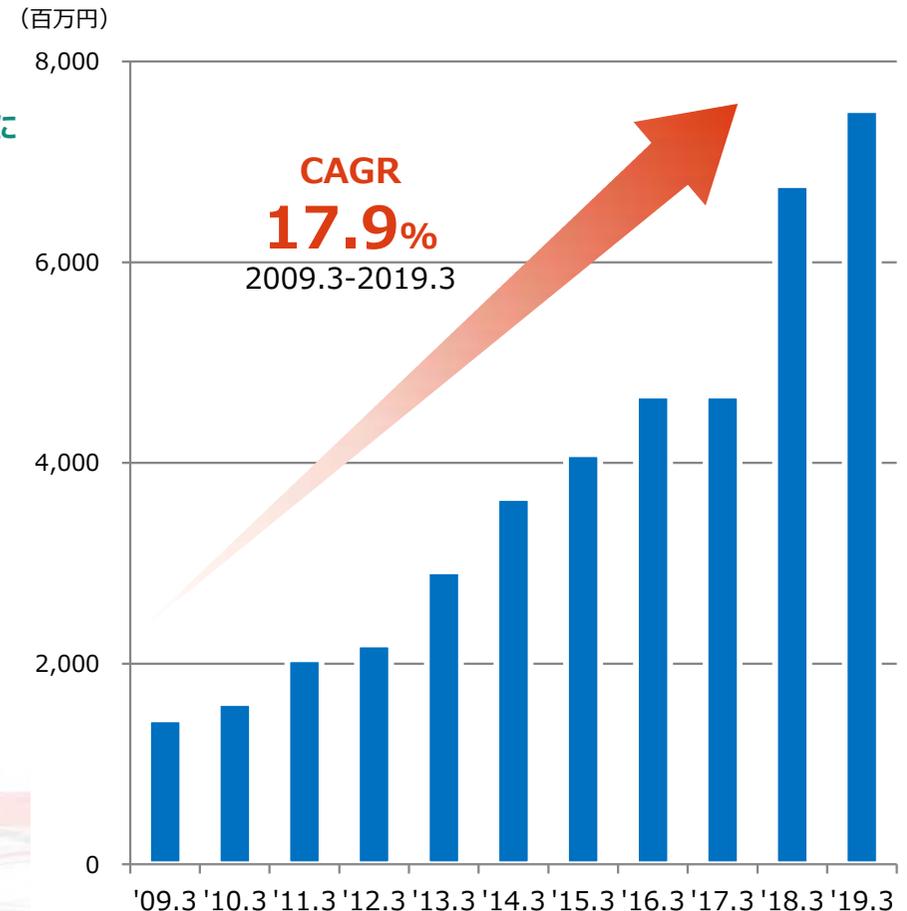
カーシート・エアバッグ縫製品事業に  
進出し売上成長を加速

- 1982 ● 縫製関連機器の開発・製造・販売を開始
- 1987 ● シートベルト用自動機の製造・販売を開始
- 1992 ● エアバッグ用自動機の製造・販売を開始
- 1997 ● レーザー裁断機を開発し、製造・販売を開始
- 2001 ● 血圧計腕帯の生産を開始
- 2007 ● 縫製自動機の販売を目的として中国に子会社設立
- 2008 ● 血圧計腕帯の製造・販売を目的としてベトナムに子会社設立

- 2012 ● ベトナムでカーシート生産開始
- 2014 ● 血圧計腕帯の製造・販売を目的としてミャンマーに子会社設立
- 2016 ● 初の3D縫製用双腕縫製ロボットを開発
- 2017 ● エアバッグ2ヘッド自動縫製ステーションを開発
- カーシートカバーの製造・販売を目的としてタカハタ(株)を子会社化
- ベトナム子会社にてエアバッグの製造を開始
- 2018 ● ドローン用エアバッグを開発し、展示会に出展
- 2019 ● エアバッグ用新型リニア式レーザーを開発

売上高の推移

縫製品事業の急成長が成長を牽引

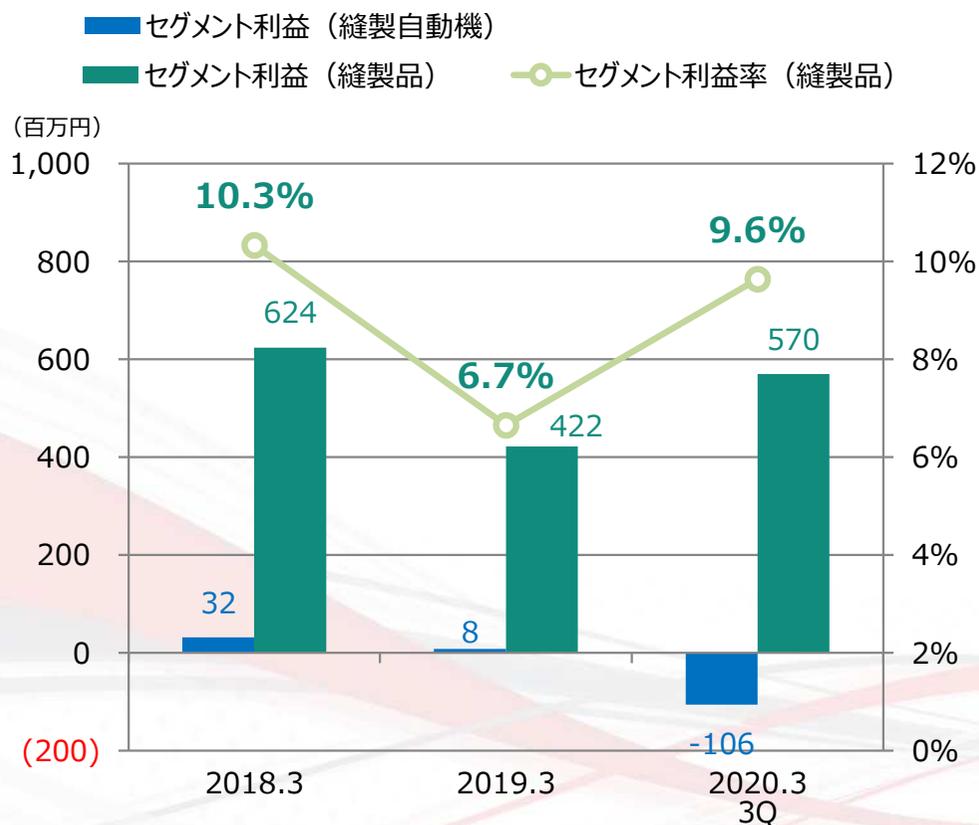


# セグメント別利益と縫製品事業のキャッシュ創出力

当社開発の縫製自動機を駆使することで、安定的に高い利益率を確保

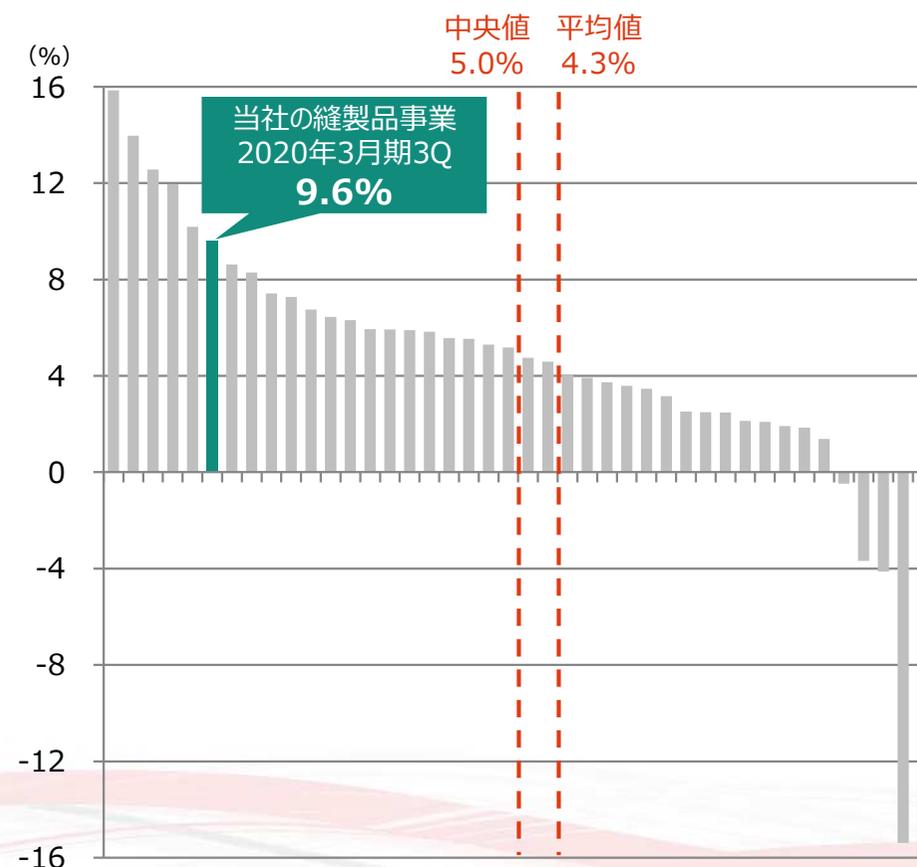
## セグメント利益（利益率）の推移

- 2019年3月期の縫製品事業は、新ラインの立上げ費用の増加により減益
- 縫製品事業の利益率は、規模の拡大に伴って向上しており、経常的に10%以上の確保が可能



## 繊維製品業界 営業利益率比較

- 国内の繊維製品業界と比較して高い利益率を確保



※上場する繊維製品業種分類企業の直近の決算期の数値

# 当社の強み

---

# 縫製自動機事業の内容

コンサルティングを起点に、自社開発のハード・ソフトを組み合わせ

人手に頼っている作業をAI搭載ロボットに置き換え、**縫製ラインの自動化**を実現する

縫製ラインで働く  
現状の人数

約 **13** 名  
※

機械に置き換えて  
人員の削減を図る

目標の人数

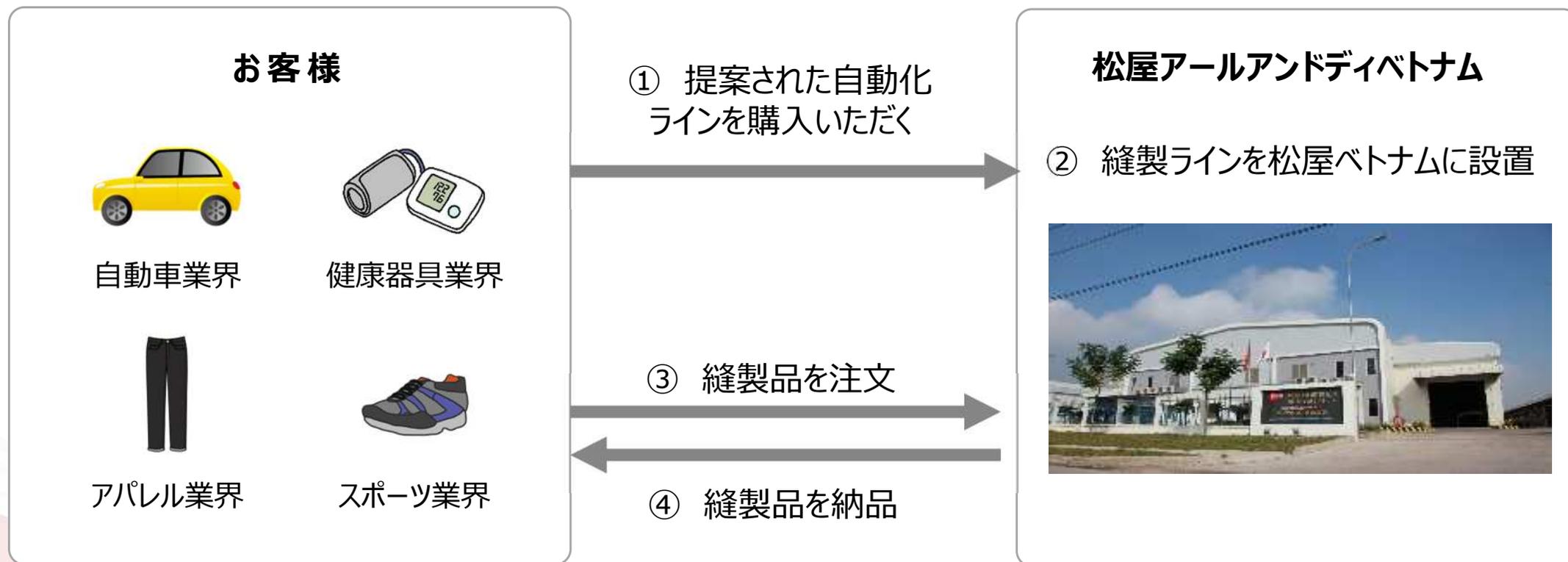
約 **4** 名  
※



※人数は参考値であり、保証されるものではありません。

# 独自の縫製品事業ビジネスモデル

顧客負担で縫製自動機を購入するため、当社の投資が少なく、急速な事業拡大が可能



縫製品製造に関するノウハウを蓄積し、  
安定的に高い利益率を確保することが可能

# 事業成功例

2000年に当社の縫製ノウハウと特殊技術により、血圧計腕帯の縫製ラインを自動化

当社が腕帯の製造を自動化し、  
世界ナンバー1の血圧計メーカーに納入



# 製造コストダウンと安定した品質を提供できる

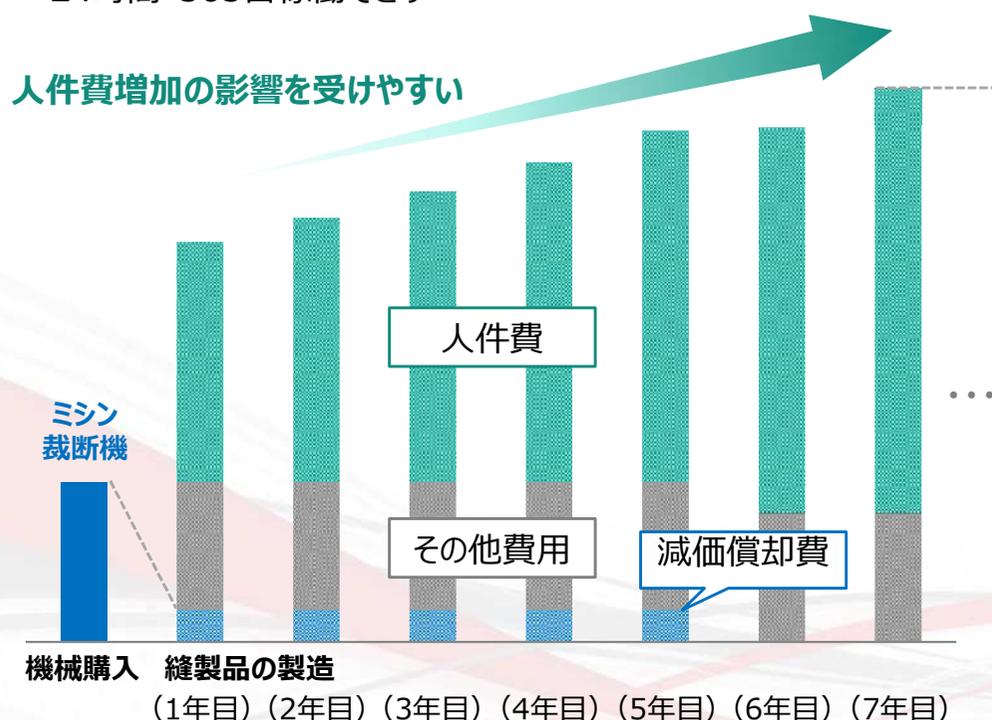
継続的に発注するほどコストメリットがでる仕組み → 安定した取引を長期継続可能

## 他社に委託した場合の費用

初期投資が少ないものの、製造コストが高く、人件費が上昇傾向

- 品質は技術者によってバラつきあり
- 絶えず人件費が安い地域を探す必要あり
- 24時間・365日稼働できず

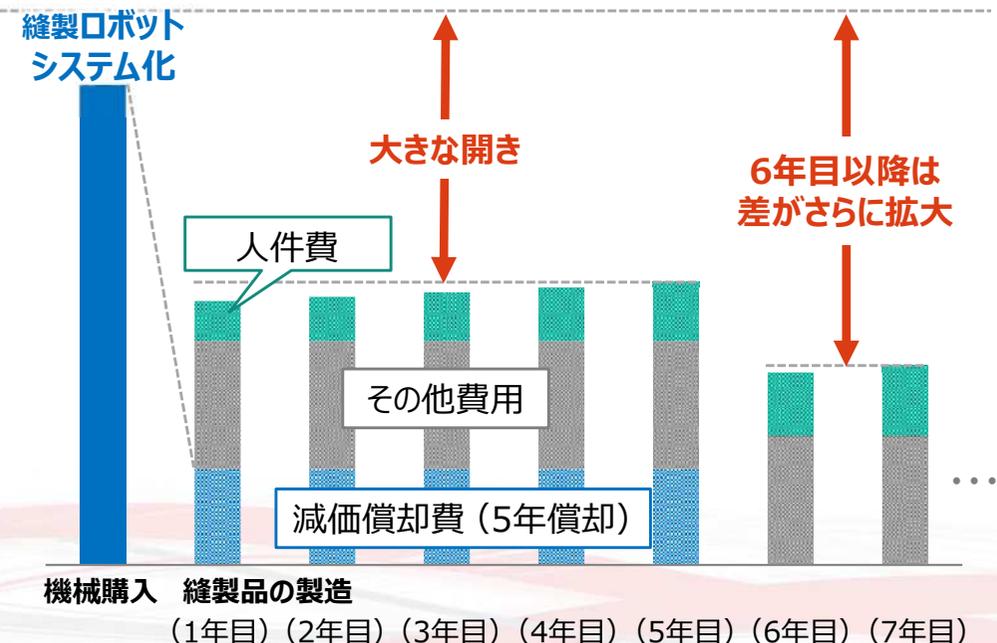
人件費増加の影響を受けやすい



## 当社に委託した場合の費用

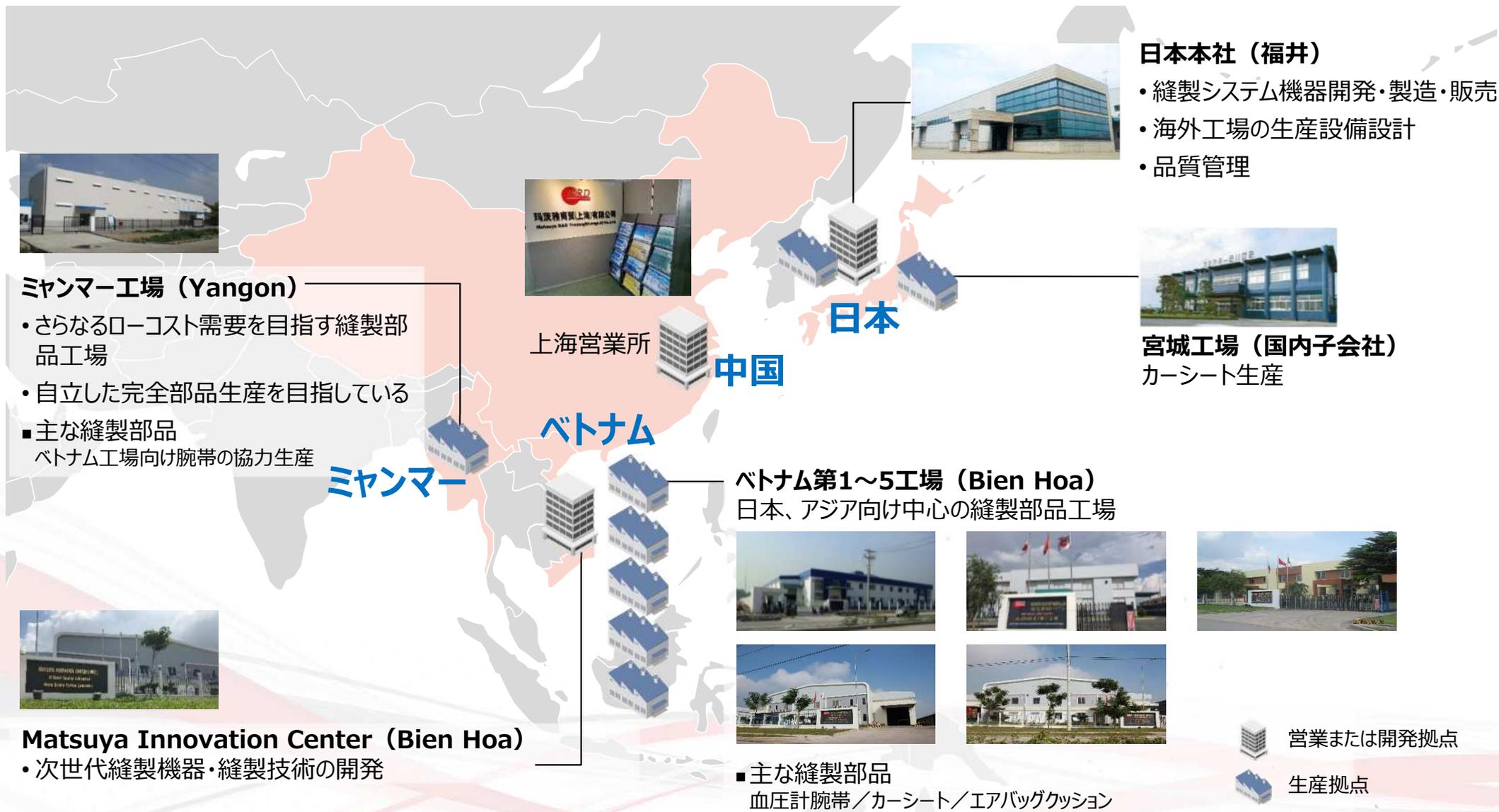
初期投資が大きいものの、製造コストが安く、品質も高い

- 品質が高く安定している
- 先進国での工場設置が可能
- 24時間・365日稼働が可能



# グローバル生産 & 営業・開発体制

アジアを中心に生産拠点を設け、低コスト生産体制を構築



# 市場環境

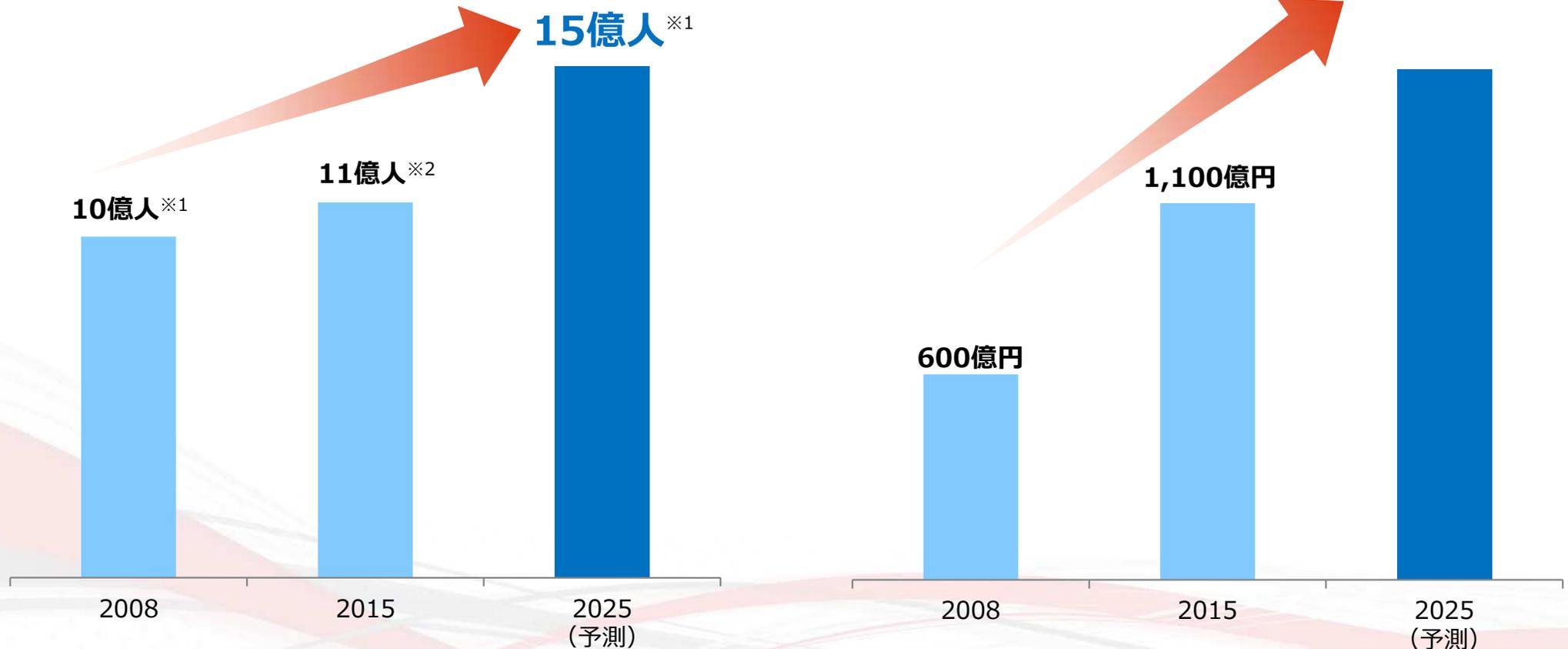
---

# 成長する血圧計市場

世界血圧計人口は2025年には15億人にまで増え、  
血圧計市場はさらに高い伸びが期待できる

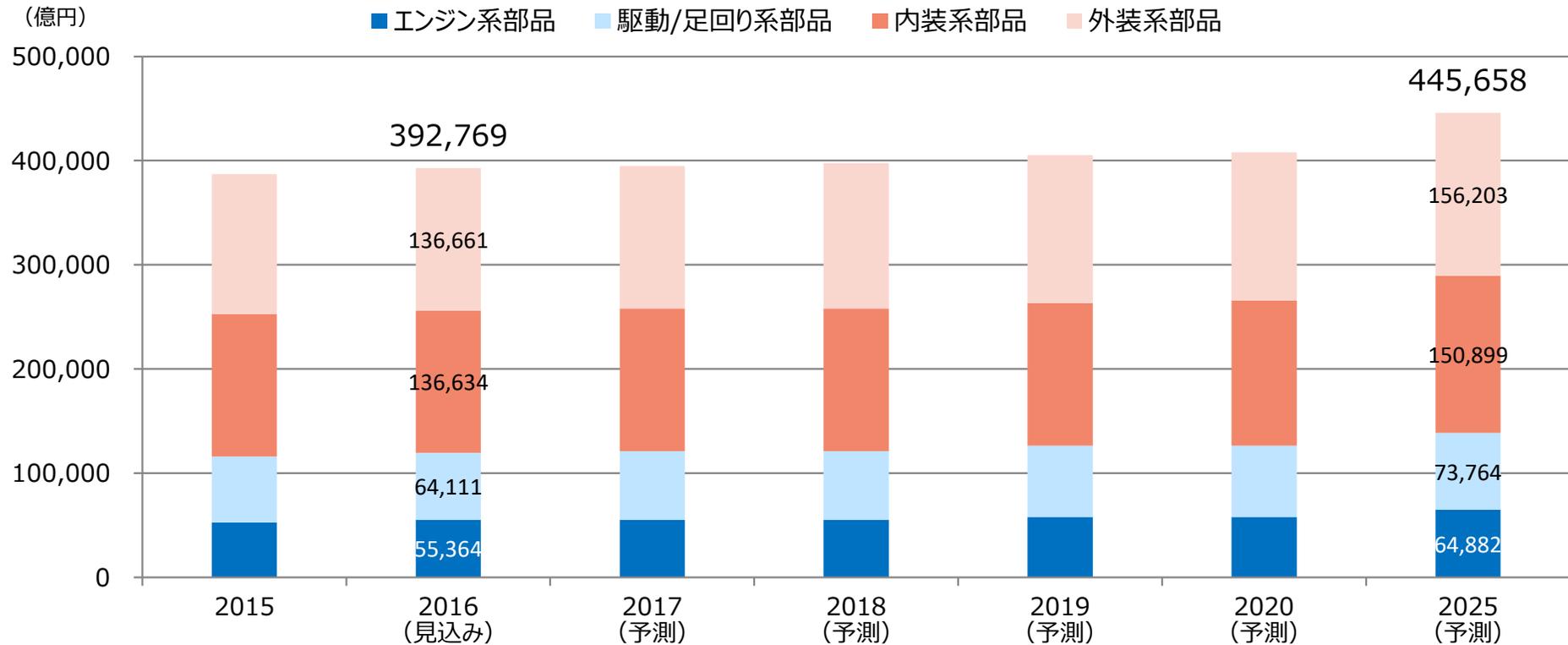
## 高血圧人口

## 血圧計市場規模



※1 出典：WHO  
※2 出典：Lancet

# 自動車部品の世界市場



## 注目分野

パッシブセーフティ市場 (内装系部品)

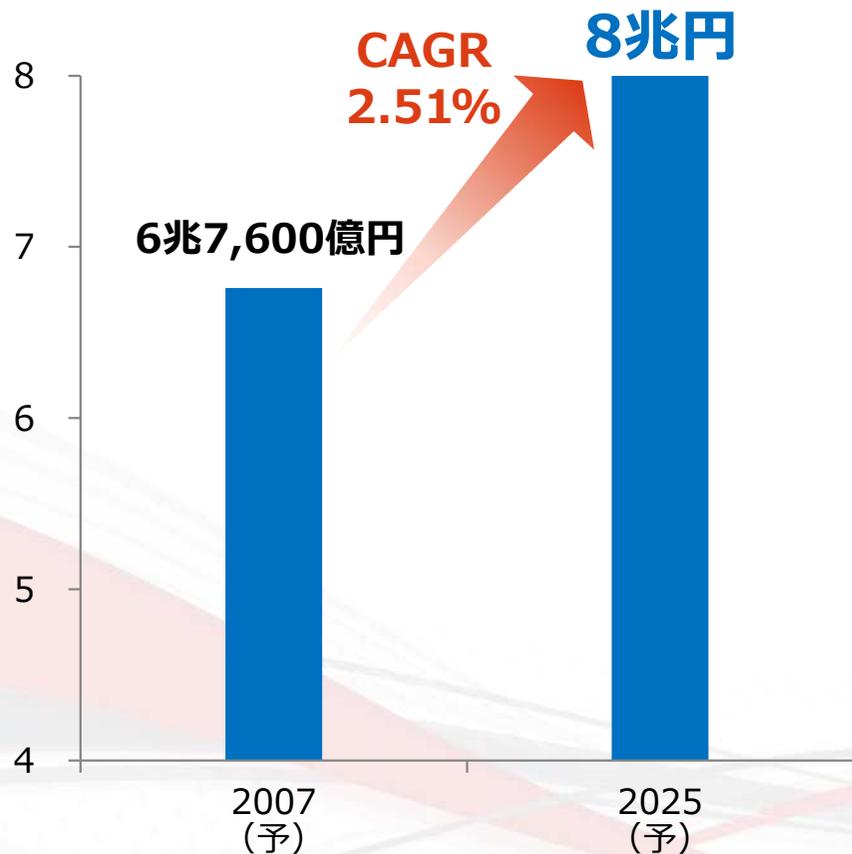
	2016年見込	2025年予測	2015年比
エアバッグ/インフレーター	1兆3,347億円	1兆4,579億円	110.0%
ステアリングホイール	2,551億円	3,162億円	125.8%
シートベルトプリテンショナー	2,034億円	4,193億円	2.2倍

出典：富士キメラ 報告書「2016 ワールドワイド自動車部品マーケティング便覧」

# カーシート世界市場規模予測

世界の自動車用シート市場は、2025年には8兆円にまで成長する見通し

## 世界の自動車用シート市場規模予測

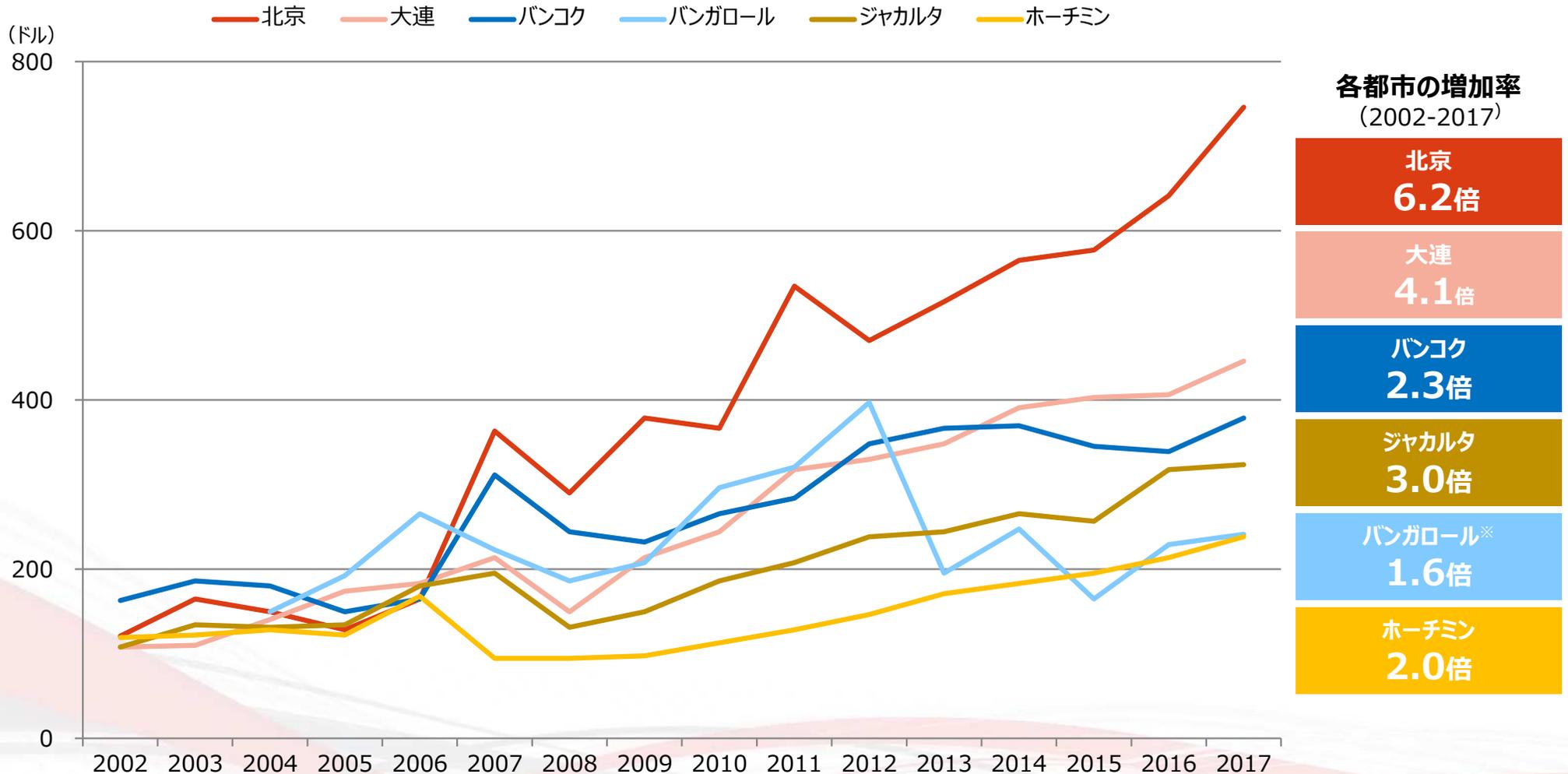


フルサイズSUV/MPVや高級車の  
販売台数増加

アジア・オセアニア諸国や中東・アフリカ  
地域での急速な成長が期待

# アジアのワーカー（一般工職）月給の推移

アジア諸国の賃金高騰で自動化ニーズが拡大



出典：JETRO調査資料  
※バンガロールは2004-2017の増加率

# 成長戦略

---

# 縫製自動機事業および縫製品事業の拡大

AI縫製ロボットを駆使した自動化ラインの構築を機に  
縫製自動機事業、縫製品事業それぞれの受注を拡大

## 新たな分野への拡大

Medical Healthcare

医療用縫合装置の開発

最先端ウェアラブル機器

Safety System

AI Sewing Robot

省力化ラインの推進

ドローン用エアバッグ



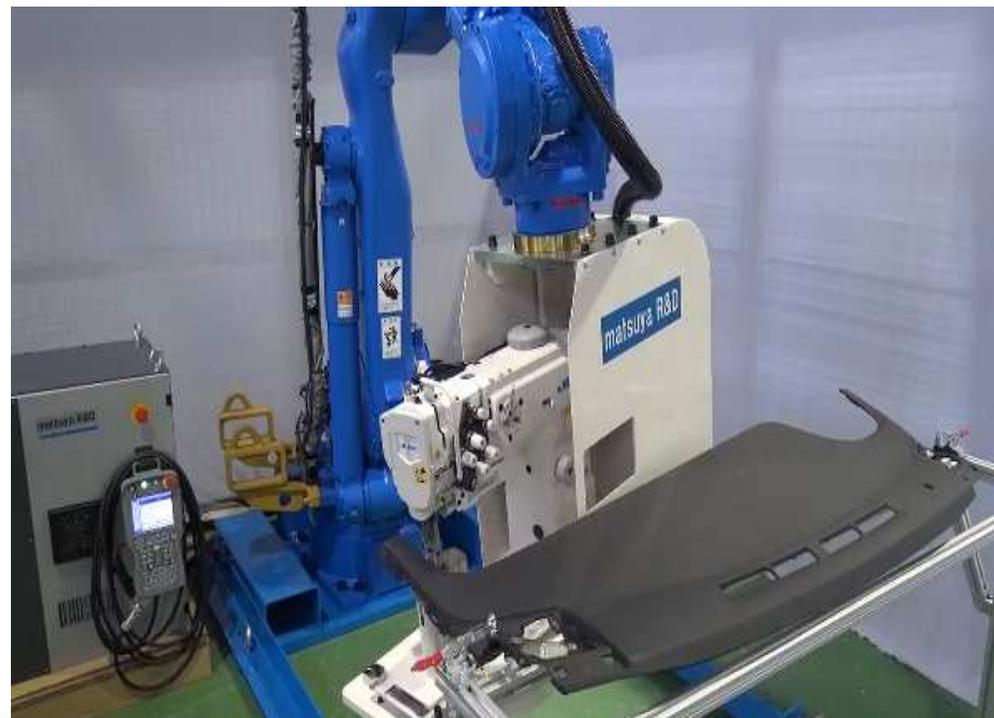
# 次世代縫製自動機およびシステムの開発

AIロボットを使った縫製技術の開発に着手し、  
次世代縫製自動機及びシステムを開発してまいります。

双腕ロボット3D2本針縫 縫製システム



6軸ロボット3D2本針縫 縫製システム



# ドローン用エアバッグの開発

ドローン用エアバッグの開発に着手  
異常動作、操縦不能時の安全対策装置として使用

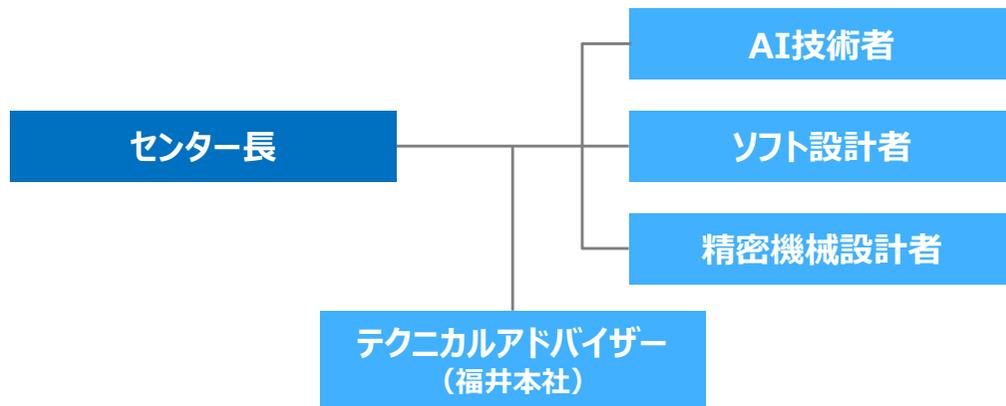


# イノベーションセンターを活用した研究開発の強化

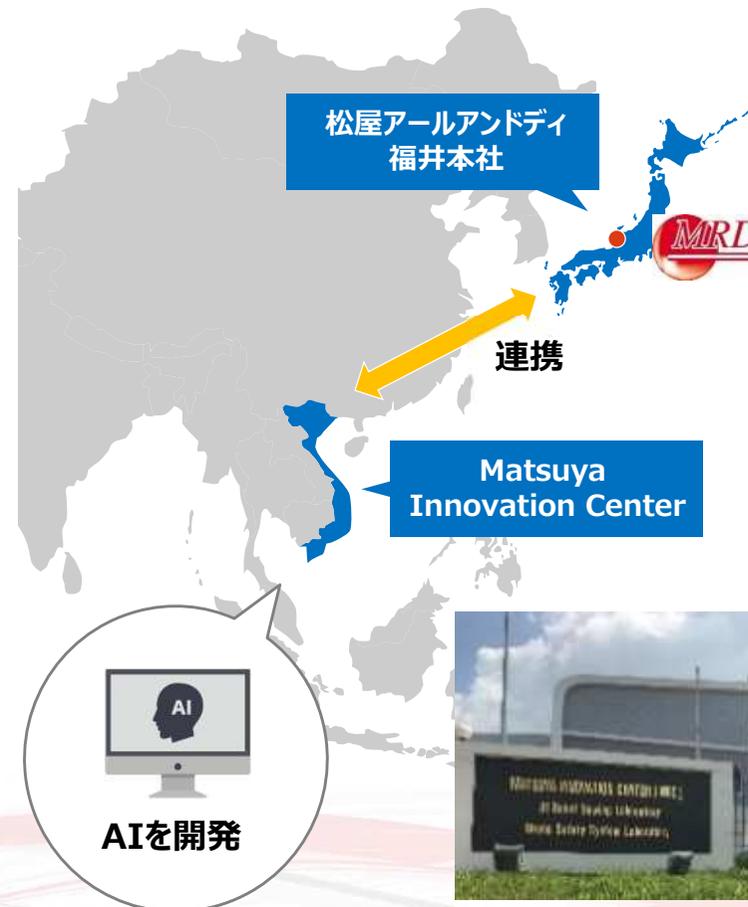


日本とベトナムが連携してAIを開発し、優秀な人材を育成

## Matsuya Innovation Center (MIC) 組織図



## ● 開発したAIで技術者を育成



## 研究開発の目的

### 技能伝承

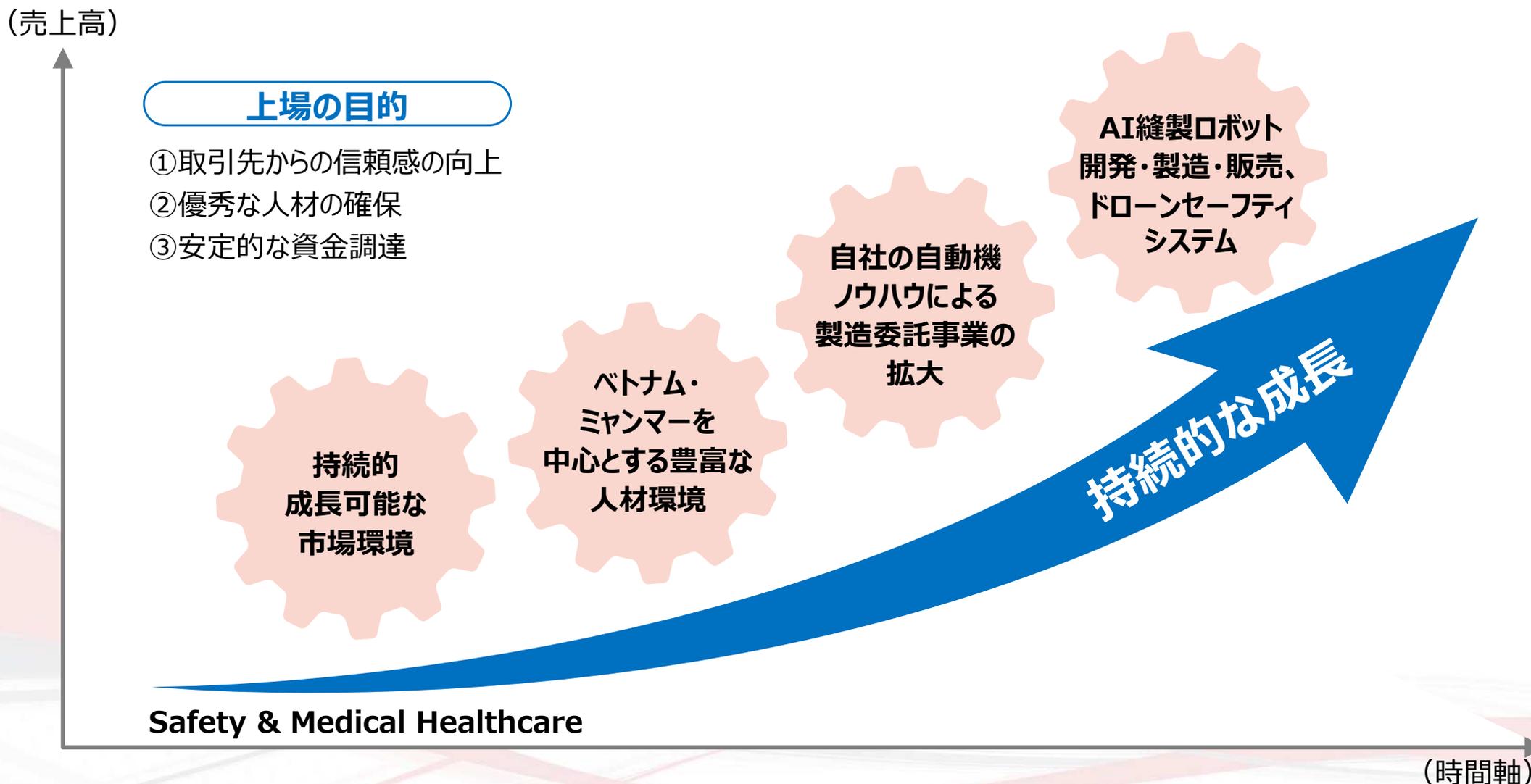
人工知能によって「匠の技」を見える化し、若い職員のスキル習得を支援

### 利益の拡大

職人の技能や創造性をデータ化し、それを生産設備につなぐことで、多品種・単品・短納期加工を実現

# 成長イメージ

付加価値の高い製品・サービスの提供と事業規模の拡大によって企業価値の最大化を図る



# 本資料の取扱について

---

本資料には、将来の見通しに関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

今後、新しい情報や将来の出来事があった場合でも、当社は、これらの見通し情報の更新や修正を行う義務を負うものではありません。

# Appendix

---

# 株主還元

---

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付けておりますが、財務体質の強化に加えて事業拡大のための内部留保の充実等を図り、事業の効率化と事業拡大のための投資に充当していくことが株主に対する最大の利益還元につながると考えております。

このことから今後においても当面の間は内部留保の充実を図る方針であります。

# 連結財務ハイライト

## 連結損益計算書

	2018.3 (百万円)	2019.3 (百万円)	2020.3 3Q (百万円)
売上高	6,767	7,517	6,451
売上原価	5,523	6,558	5,550
売上総利益	1,243	959	901
売上総利益率	18.4%	12.8%	14.0%
販売費及び一般管理費	798	778	590
営業利益	444	180	310
営業利益率	6.6%	2.4%	4.8%
経常利益	493	223	297
税金等調整前 当期純利益	335	222	297
親会社株主に帰属 する当期純利益	207	113	240
当期純利益率	3.1%	1.5%	3.7%
1株当たり当期 純利益(円)	92.12	50.53	—
ROE	11.7%	6.4%	—

## 連結貸借対照表

	2018.3 (百万円)	2019.3 (百万円)	2020.3 3Q (百万円)
流動資産	2,913	3,428	3,800
固定資産	490	662	909
資産合計	3,404	4,091	4,709
流動負債	1,410	1,979	2,143
固定負債	235	333	559
負債合計	1,646	2,313	2,703
純資産	1,757	1,777	2,006
負債純資産合計	3,404	4,091	4,709

## 連結キャッシュ・フロー計算書

	2018.3 (百万円)	2019.3 (百万円)	2020.3 3Q (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	△59	8	—
投資活動による キャッシュ・フロー	△349	△119	—
財務活動による キャッシュ・フロー	△125	330	—
現金及び現金同等物の 期末残高	325	528	—